

# チェコ・フィル

音楽監督・首席指揮者:

セミヨン・ビシュコフ

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

Czech Philharmonic

セミヨン・ビシュコフ スメタナ「わが祖国」を熱く語る!

## “「わが祖国」は、特別な生き物のような楽曲です。”

「モルダウ」～「わが祖国」よりは、世界の誰もが知っていて、皆に愛されている曲です。曲名を知らなくとも、誰もが一度は聴いたことがあって、メロディを認識できる曲でしょう。

今回の日本ツアーの東京公演では「わが祖国」を全曲演奏します。「わが祖国」は、特別な生き物のような楽曲です。チェコの人々にとっては、「わが祖国」は国歌のようであり、聖書のようなでもあります。この曲から、人々の心の中にある、独立への渴望、国の存続にける願いを感じ取るからだと思います。そのため、この曲はチェコでは、人々の気持ちに寄り添う特別な曲なのです。そしてなぜこの曲が普遍的な曲であるのか。それを理解するのは簡単です。英語では、よく「わが国」と訳されていますが、それは少し違って、**「わが祖国」**が正しいと思います。フランス語では、Patrie (祖国)、イタリア語ではPatria (祖国)、ロシアではMotherland (母国)、ドイツでは、Fatherland (父祖の国)と訳されるように、つまり皆にとっての祖国、また、こうあって欲しいと思う国の

姿についての曲なのです。私達皆が愛する唯一の祖国のことであるからこそ、大変普遍的な作品なのです。

私達は誰もが、自分の国の歴史と対峙しなくてはなりません。例えば私はロシアで生まれ、スターリン時代の共産主義の弾圧の歴史と対峙しました。ドイツ人であれば、ナチス・ドイツとの過去との対峙があります。先週私はスペインのマドリッドで指揮をしたので、スペイン人の友人と話していたら、彼らもやはりフランコ政権の独裁を経験しているのです。チリではピノチェトの独裁というように、世界のどこへ行っても、自分たちに責任の無い、50年前、100年前あるいは3世紀前のことであっても関係なく、その国の歴史に翻弄されます。祖国の歴史は私達のDNAに刻み込まれているのです。そのようなことから、「わが祖国」という曲は、人々の心の琴線に触れるのだと思います。それがたまたま、このチェコの地で生まれた、ということなのでしょう。

**好評発売中!** 深い詩情で奏でる祖国への熱い思い!

2019年10月28日(月) 19:00開演(18:20開場)

スメタナ: 連作交響詩 **「わが祖国」**

※途中休憩はございません。

**売切**

2019年10月22日(火・祝) 18:00開演  
スメタナ:モルダウ～連作交響詩「わが祖国」より  
チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲(ヴァイオリン:榎本大進)  
チャイコフスキー:交響曲第6番「悲愴」 S～D売切

S¥20,000 A¥16,000 B¥13,000 [売切]  
C¥10,000 [売切] D¥7,000 [売切]

夢倶楽部料金  
S¥19,000 A¥15,000 B¥12,000 [売切] C¥9,000 [売切]  
D¥6,300 [売切]

**サントリーホール**(両日共)

主催:日本経済新聞社/ジャパン・アーツ 後援:チェコ共和国大使館  
特別協賛:三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

<その他の日本公演スケジュール>

- 10/19(土)名古屋 ●10/20(日)横浜 ●10/24(木)東京[文京]\*
  - 10/25(金)東京[NHK]\* ●10/27(日)大阪\* ●10/29(火)熊本
- \* 榎本大進 出演

【チケット取扱い・お問合せ】

ジャパン・アーツ ぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

ジャパン・アーツ 検索 ※料金は税込

TEL: 毎日 10:00-18:00、土日も営業  
WEB: 24時間受付

横浜音祭り2019

# チェコ・フィル



© PetraHajska

音楽監督・首席指揮者：  
**セミヨン・ビシュコフ**  
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団  
Czech Philharmonic

## 首都圏では横浜だけの演目！ チェコ・フィル × 「チャイコフスキー交響曲第5番」

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者・音楽監督に2018年10月より就任したビシュコフは、この数年間、同楽団とともにチャイコフスキーの交響曲ツィクルスの録音に集中的に取り組んでおり、今回のツアーは、その精力的に取り組むチャイコフスキー作品がメイン。まさにチェコ・フィルの“今”を聴くことができるプログラムです。

チャイコフスキーの交響曲のなかでも人気の第5番は、首都圏では横浜公演だけの演目。ドラマティックであり、叙情的なメロディーは心の奥深くに語り掛け、多くの人々の心を掴んで離さない名曲です。そしてこの曲の魅力は、何と言っても第2楽章のホルン・ソロ。チェコ・フィルは、代々、名ホルン奏者を輩出しており、今回の公演は、ホルンの演奏が最大の魅力ともなります。

日本のホルン名手の一人、**福川伸陽氏(NHK交響楽団首席ホルン奏者)**からも今回の横浜公演に向けて、推薦メッセージが寄せられています。

——「ホルンの源流の伝統を受け継ぐチェコは、ホルン本来の柔らかく優しい、深い音色を現代においても持ち続けています。シューマンが“ホルンはオーケストラの魂である”と表現したように、ホルンの音色はオーケストラのイメージを左右します。チェコ・フィルの、

美しく儂げな音が僕は大好きなのですが、それはひょっとしたらホルンから来ているのかもしれませんが。また、かすかにヴィブラートをかけ、重くなりすぎないチェコ・フィルの管楽器群は、弦楽器に良く溶け、古き良きスタイルを色濃く残していると思います。その彼らの演奏するスメタナやドヴォルザークがなんとも言えない響きを醸し出すのは至極当然の事なのですが、今回横浜みなとみらいホールで行われるコンサートは、同じスラヴの心を持つロシア音楽、しかもチャイコフスキーと聞いては血が騒がずにはいられません。5番の交響曲はベートーヴェンのように、運命に立ち向かい勝利するストーリーがありますが、その道半ばである第二楽章に、胸に迫る長いホルンのソロがあります。ボヘミアの時代からの表情豊かなチェコ・フィルのホルン奏者がどのような演奏をするか、今から本当に楽しみです。

(福川伸陽/NHK交響楽団首席ホルン奏者) ※

また、横浜公演では彼らの故郷チェコ音楽の中でも大切なレパートリーである、スメタナの「わが祖国」から“ヴィシエフラト(高い城)” “モルダウ” “シャルカ”も演奏されます。まさに伝統と革新が融合され新たな時代の幕開けとなる、聴き逃せない公演です。

※福川伸陽氏の推薦メッセージは、横浜みなとみらいホールwebサイト (<http://www.yaf.or.jp/mmh/index.php>) にて全文を紹介しています。

2019年10月20日(日) 15:00開演(14:20開場)

好評発売中!

スメタナ：連作交響詩「わが祖国」より

“ヴィシエフラト(高い城)” “モルダウ” “シャルカ”

チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64

[全席指定]  
S¥19,000 A¥15,000 B¥12,000 C¥9,000  
Miraist Club (横浜みなとみらいホール友の会)  
[会員特別価格] S¥15,000 A¥12,000 B¥11,000 C¥8,000  
※学生・65歳以上の方・障がい者手帳をお持ちの方 各席種5%割引  
(横浜みなとみらいホールチケットセンター窓口及び電話のみ取扱い)

## 横浜みなとみらいホール 大ホール

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団) 共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

[チケット取扱い・お問合せ]

横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000 <http://minatomirai.pia.jp/>

(電話予約 10:00-17:00、窓口11:00-19:00、休館日・保守点検日を除く)